

平成 29 年度教員の教育力向上のための授業改善研修会 発表報告

発表者 高瀬 ゆり

公開授業（分野） テキスタイルデザイン基礎Ⅱ（専門科目）

対象学年（履修区分）：2 学年 必修

公開日時： 平成 29 年 7 月 24 日（月）3, 4 限

■公開した授業の該当科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

全30回の2年次テキスタイルコースの初めての織り実技基礎技法習得の授業である。織り基礎を①織り三原組織（平、斜紋、朱子）の基礎織り技法と組織図②パイル織りによるレリーフ技法③フックドラグ技法の三項目に分けて構成しており、公開した授業は最終項目のフックドラグ技法の授業である。三種の織り技法は全く異なる表情を持つ織物であり、各々技法サンプル制作を丁寧に行う事から始める(グループ作業含む)サンプル終了後に三種技法違いによる小作品を制作。今期からあえて同一テーマ"各自の選んだ写真をテーマモチーフ"に統一した。その結果、各技法の特徴が活かされた作品が仕上がり、表現への興味を深める事が出来た。織りの技法を学ぶ以前に重要なことは道具、工程、加減(手の感覚)この三点を知り理解する事である。個人対応を重視し繰り返し丁寧な指導を心掛けている。(特に道具の扱い方は怪我のないように、個人の癖も含めて指導)

デザインアイデアやイメージを如何に素材や色に落とし込むかはテキスタイルの魅力だ。素材を知ることにも大きな意味を持つ。この授業では素材研究の講義も行う。素材の知識を得た上で、実社会のテキスタイルの役割を知り現場を知る貴重な体験となる工場や展示会等の学外見学を実施している。テキスタイルの基礎を学ぶにあたり、「テキスタイルというものの全体像」をイメージ出来る様、学生の興味を引っ張ることも大切なことだと考えている。又、本学のみしか行っていないオリジナルフックガンを使用したフックドラグ技法の授業は、新たなテキスタイル教育への挑戦であり本学テキスタイルコースの眼目として今後もさらに充実した指導を行いたい。

■参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

距離の近いコミュニケーションの成立した授業で、ゼミ的な親密さのある授業だと御意見を頂いた。少人数制という前提で実演形式の説明などで理解度は高い。実技での個人対応の指導が多いため、今後もモニターなどの使用はせずに実機での実演指導を行う。人数が増えた場合も同様だが、場所の混雑が予想されるため壁面利用法も検討材料となる。

学年混在教室であるために、他の学生との使用場所の配分などが難題である。空気感の異なり、距離感の問題もあり集中力の低下に繋がりがやすい。

■その他



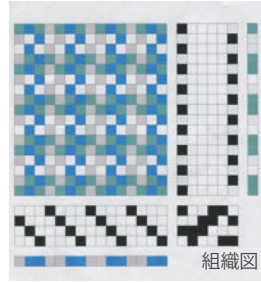
糸巻き



ろくろ式織機



綜紘通し



組織図



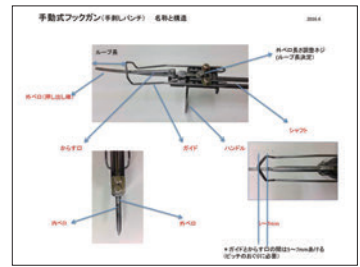
パイル織



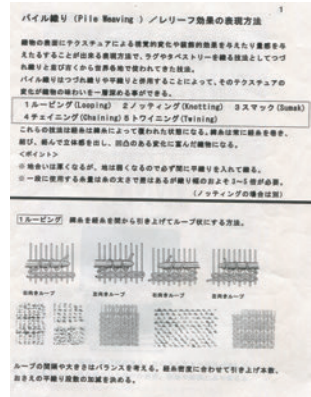
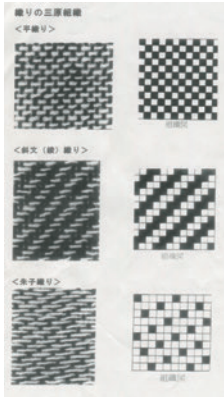
フックドラグ



フックガン



手動式フックガン(手動レシコ) 名称と構造



八王子ジャガード工場見学

